

ひろしまAI部のAIチャレンジ（企業訪問）について

1 要旨

産学官の連携により、高校生がAIを理解し、活用する力を身に付ける機会を提供する教育プログラム「ひろしまAI部」では、6月から開始したAI基礎学習の修了後、AIを使った社会や企業の課題解決をテーマにアイデアを競う成果発表会に向け、実社会でのAIの活用可能性を探求する企業訪問を実施しており、その状況を報告する。

2 実施状況と計画

時期	企業名 【テーマ】	概要	参加者数
9月14日 【済】	株式会社 復建調査設計 【AI×インフラ】	画像識別AIによる交通量計測、3D都市モデルによる人流予測などでAIの開発・活用方法を体験し、インフラ業界等でのAIの活用方法などを発表	18名
10月8日 10月13日 10月14日 【済】	株式会社広島 ドラゴンフライズ 【AI×スポーツ】	スポーツアナリストやAIなどの専門家と共に、スポーツビジネスの課題解決や新グッズ考案にチャレンジ。考案したアイデアは、広島ドラゴンフライズ浦社長に直接提案	36名
11月下旬 ～12月上旬	マイクロン メモリジャパン 株式会社 【AI×半導体】	AIと半導体の関係を工場見学で学び、最先端半導体の開発と製造におけるAI活用の可能性をテーマとしたグループワークを実施	(30名)
12月下旬	株式会社 北川鉄工所 【AI×製造業】	センシング技術を活用した製造ラインや自動化・省人化した工場を見学し、製造現場でのAI活用の可能性をテーマとしたグループワークを実施	(30名)

※（）内は予定人数

3 予算額

22,426千円（コンソーシアムへの負担金）

4 成果目標（令和6年度）

プログラム参加者のうちAIなどテクノロジーを活用して課題解決することができるスキルの基礎を身に付けた生徒の割合：70.0%

【活動指標】

AI基礎教育プログラム参画学校数：8校（現在23校）

5 ひろしまAI部ホームページ（二次元コード）

<https://hiroshima-aiclub.org/>



（株）復建調査設計の社員から3D都市モデルの説明を聞く高校生

